

# 令3 特別支援学校 (8枚のうち1)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

I 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進に向けた制度改正に関する問題です。以下の各問いに答えなさい。

1 特別支援教育の制度について述べた次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

障害の種類や程度に応じて盲・聾・養護学校や ( ① ) といった特別な場で指導を行うことにより、手厚くきめ細かい教育を行うことに重点が置かれてきた ( ② ) は、a平成18年6月の学校教育法の一部改正により、特別支援教育へと発展的に転換した。

特別支援教育とは、障害のある幼児児童生徒の自立や ( ③ ) に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の ( ④ ) を把握し、その ( ⑤ ) を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。また、学校教育法施行規則の一部改正 (平成18年4月施行) により、b通級による指導の対象となる者として、c学習障害者及びd注意欠陥多動性障害者が加えられ位置付けられた。

(1) 文章中の①～⑤に当てはまる語句を次の〈語群〉ア～セからそれぞれ選んで、その符号を書きなさい。

〈語群〉

ア 主体性    イ 訪問学級    ウ 教育的ニーズ    エ 特殊教育    オ 生きる力    カ 特殊学級    キ 普通教育  
ク 自尊感情    ケ 持てる力    コ 特別支援学級    サ 社会参加    シ 障害の克服    ス 通常の学級    セ 生育歴

(2) 下線部 a の主な改正点を1つ、簡潔に書きなさい。

(3) 下線部 b について説明した、次の文ア～オについて、正しいものに○を、誤っているものに×を書きなさい。

ア 指導に当たっては、特別支援学校の学習指導要領を参考とし、「自立活動」の内容を取り入れた特別の教育課程を編成する。

イ 特に必要があるときは、障害の状態に応じて各教科の内容を取り扱いながら指導を行うことも可能であるため、単なる各教科の学習の遅れを取り戻すための指導なども組み入れることが望ましい。

ウ 小・中学校においては、平成5年度から、高等学校においては、平成30年度から制度化された。

エ 高等学校で通級による指導担当教員は、高等学校教諭免許状を有する必要があるが、特定教科の免許状を保有する必要はない。

オ 特別の教育課程については、小・中学校では週1～8コマを標準とし、高等学校では年間7単位以内とする。

(4) 下線部 c、d の略称をアルファベットで書きなさい。

2 次の文章は教育支援資料 (平成25年10月) の合理的配慮等に関する説明です。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

障害のある子どもに対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、( ① ) の整備をそれぞれ行う。これらは、合理的配慮の ( ② ) となる ( ③ ) であり、それを ( ② ) 的 ( ③ ) と呼ぶこととする。これらの ( ③ ) は、その状況により異なるところではあるが、これらを基に、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子どもに対し、その状況に応じて合理的配慮を提供する。

合理的配慮とは、障害者が他の者と平等にすべての ( ④ ) 及び基本的自由を享受し、または ( ⑤ ) することを確保するための必要かつ適当な ( ⑥ ) 及び ( ⑦ ) であって、特定の場合において必要とされるものであり、( ⑧ ) を失した又は過度の ( ⑨ ) を課さないものをいう。

(1) 文章中の①～⑨に当てはまる語句を次の〈語群〉ア～ナからそれぞれ選んで、その符号を書きなさい。(同一数字には、同語句が入ります。)

〈語群〉

ア 前段階    イ 基礎    ウ 変更    エ 行使    オ 推進力    カ 生命    キ 施設設備  
ク 主張    ケ 調整    コ 教育環境    サ 基本    シ 負担    ス 応用    セ 実態  
ソ 人権    タ 環境整備    チ 調和    ツ 提案    テ 権利    ト 保障    ナ 均衡

(2) 次の文ア～エについて、合理的配慮の提供に当てはまるものをすべて選んで、その符号を書きなさい。

ア 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) により、筋力が落ちている生徒に、マラソンなどの参加が難しい体育の授業は見学し、レポートを提出させることとした。

イ すべての児童に分かりやすい授業を行うため、ICT 機器を用いて教室前面のスクリーンに、学習のポイントを映写した。

ウ 試験等において、公平性を担保する範囲内で、本人・保護者の希望、障害の状況等を踏まえ、別室での受験を許可した。

エ 玄関ホールに案内となるものがなく、どちらへ進めばよいか分かりにくいので、玄関ホール内に入出口付近から通路方向へ誘導する点字ブロックを設置した。

(3) 設置者及び学校と本人及び保護者の意見が一致しない場合に、具体的な場面や状況に応じて、代替措置の選択も含めた、双方の建設的な対話により決定するプロセスのことを何というか。漢字四文字で書きなさい。

# 令3 特別支援学校 (8枚のうち2)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

3 次の文章を読んで、下線部の語句が正しければ○を、誤っていれば正しい語句を答えなさい。

- (1) 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(中央教育審議会答申)」(平成23年)においては、「キャリア教育」とは、「一人一人の社会的・経済的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育である」とされた。
- (2) 「障害者の雇用の促進に関する法律」(平成元年改定)では、障害者の活躍の場の拡大に関する措置として、国及び地方公共団体は、障害者活躍推進計画を立てることとされた。
- (3) 児童福祉法で定められる「放課後等デイサービス」とは、学校教育法第一条に規定する学校(幼稚園・大学を含む)に就学している障害児につき、授業の終了後又は休業日に児童発達支援センターその他の厚生労働省令で定める施設に通わせ、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することをいう。

II 特別支援学校学習指導要領に関する問題です。以下の各問いに答えなさい。

1 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示)「第7章 自立活動」について、次の問いに答えなさい。

- (1) 次の①～⑧は「第2 内容」に示された自立活動の項目です。あとの〈語群〉ア～カの区分のどれに当てはまるかそれぞれ選んで、その符号を書きなさい。(同じ記号を何回使用してもよい。)

- ①感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。
- ②自己の理解と行動の調整に関すること。
- ③感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。
- ④言語の形成と活用に関すること。
- ⑤姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。
- ⑥障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。
- ⑦認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。
- ⑧障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。

〈語群〉

- |         |          |             |
|---------|----------|-------------|
| ア 健康の保持 | イ 心理的な安定 | ウ 人間関係の形成   |
| エ 環境の把握 | オ 身体の動き  | カ コミュニケーション |

- (2) 学習指導要領では、自立活動における個別の指導計画の作成と内容の取扱いについて、次のように示されています。文中の①～⑥に当てはまる語句を、あとの〈語群〉ア～シからそれぞれ選んで、その符号を書きなさい。(同一数字には、同語句が入ります。)

- ・児童又は生徒が、興味をもって(①)に取り組み、成就感を味わうとともに自己を(②)に捉えることができるような指導内容を取り上げること。
- ・個々の児童又は生徒が、活動しやすいように自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができるような指導内容を(③)に取り上げること。
- ・児童又は生徒が、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができるような指導内容を(④)に取り上げること。
- ・児童又は生徒の学習状況や結果を適切に評価し、個別の指導計画や(⑤)な指導の改善に生かすよう努めること。
- ・各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の指導と密接な関連を保つようにし、(③)、(⑥)に指導が行われるようにするものとする。

〈語群〉

- |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ア 総合的 | イ 具体的 | ウ 専門的 | エ 意欲的 | オ 主体的 | カ 肯定的 |
| キ 発展的 | ク 対話的 | ケ 組織的 | コ 重点的 | サ 基本的 | シ 計画的 |

# 令3 特別支援学校 (8枚のうち3)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

2 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示)「第1章 総則」の記述について、下線部①～⑥の語句が正しいければ○を、誤っていれば正しい語句を答えなさい。

項目	本文
教育目標	・小学部及び中学部における教育については、① <u>学校教育法施行規則第72条</u> に定める目的を実現するために、児童及び生徒の障害の状態や特性及び心身の② <u>成長</u> の段階等を十分考慮して、次に掲げる目標の達成に努めなければならない。(後略)
小・中学部における教育の基本と教育課程の役割	・学校における③ <u>日常生活</u> の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。
教育課程の実施と学習評価	・障害のため通学して教育を受けることが困難な児童又は生徒に対して、教員を④ <u>派遣</u> して教育を行う場合については、障害の状態や学習環境等に応じて、指導方法や指導体制を工夫し、学習活動が効果的に行われるようにすること。
学校運営上の留意事項	・他の特別支援学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、中学校、高等学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のない幼児児童生徒との⑤ <u>交流及び共同学習</u> の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること。 ・小学校又は中学校等の要請により、障害のある児童若しくは生徒又は当該児童若しくは生徒の教育を担当する教師等に対して必要な助言又は援助を行ったり、地域の実態や家庭の要請等により保護者等に対して教育相談を行ったりするなど、各学校の教師の専門性や施設・設備を生かした地域における特別支援教育の⑥ <u>相談窓口</u> としての役割を果たすよう努めること。

3 特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月告示)「第1章 総則」の教育課程の編成について、次の問いに答えなさい。

(1) 学習指導要領では、生徒の調和的な発達を支える指導を充実させるための配慮事項について、次のように示されています。文中の①～⑤に当てはまる適切な語句をそれぞれ書きなさい。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から( ① )経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行う( ② )の双方により、生徒の発達を支援すること。</li> <li>・生徒が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら、( ③ )の充実を図ること。</li> <li>・( ④ )を通じてスポーツや文化芸術活動に親しみ、豊かな生活を営むことができるよう、地域のスポーツ団体、文化芸術団体及び障害者福祉団体等と連携し、多様なスポーツや文化芸術活動を体験することができるよう配慮すること。</li> <li>・実験・実習に当たっては、特に( ⑤ )と保健に留意すること。</li> </ul>
--

(2) 次の文ア～カについて、下線部の語句が正しいものに○を、誤っているものに×を書きなさい。

障害の特性	本文
視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校高等部	<p>ア 卒業までに履修させる各教科等の単位数の合計は<u>74単位以上</u>でなければならない。</p> <p>イ 全ての生徒に履修させる各教科・科目のうち、国語では「<u>現代の国語</u>」「<u>国語文化</u>」が必履修科目となっている。</p> <p>ウ 学校においては、学校設定教科に関する科目として「<u>産業社会と人間</u>」を設けることができる。</p>
知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校高等部	<p>エ 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業及び家庭の各教科、道徳科、<u>総合的な学習の時間</u>、特別活動並びに自立活動については、特に示す場合を除き、全ての生徒に履修させるものとする。</p> <p>オ 各教科等の総授業時数は、各学年とも<u>1,015単位時間</u>を標準とし、特に必要がある場合には、これを増加することができる。</p> <p>カ 専門学科においては、各学科に共通する各教科等のほか、家政、農業、工業、流通・サービス若しくは<u>商業</u>の各教科又は専門教科のうち、いずれか1以上履修させるものとする。</p>



# 令3 特別支援学校 (8枚のうち4)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

Ⅲ 障害種別ごとの問題です。以下の各問いに答えなさい。

1 視覚障害に関する問題です。次の問いに答えなさい。

(1) 遠距離視力の測定で用いられる視標(図1)の名称を書きなさい。

ただし、マス目は1.5mmである。

(2) 図1を識別でき、視力1.0とされる距離は何mか書きなさい。

(3) 明るいところから暗いところに入ったとき、最初は見えないものが次第に見えてくることを何というか。

漢字三文字で書きなさい。

(4) 次の文ア～オについて、下線部の語句が正しいものに○を、誤っているものに×を書きなさい。

ア 弱視レンズのうち、手元の小さなものを見るための近用弱視レンズを単眼鏡という。

イ 拡大読書器とは、カメラで撮影した映像に電子回路で様々な処理を加え、モニタ画面に表示する道具である。

ウ 拡大教科書は、原本教科書がフルカラーである場合でも、原則として白黒で印刷する。

エ 点字の教科書や書物は両手を使って読んでもよい。

オ 視野検査では、片眼ずつ上下左右に動かして、その範囲を測定する。

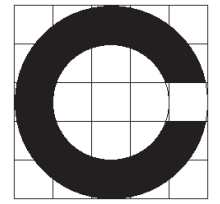


図1

2 聴覚障害に関する問題です。次の問いに答えなさい。

(1) 図2は耳の構造を表したものである。次の①～③が示す器官を図2のA～Gから選んで、その符号を書きなさい。

①三半規管 ②耳小骨 ③耳管

(2) 人工内耳の電極を埋め込む器官を図2のA～Gから選んで、その符号を書きなさい。

(3) 純音聴力検査で右耳を調べたところ、500Hzが85dB、1000Hzが95dB、2000Hzが90dB、4000Hzが85dBであった。四分法により右耳の平均聴力レベルを算出なさい。(小数第2位まで求めよ)

(4) 次の文章中の①～⑧に当てはまる語句を、あとの〈語群〉ア～セからそれぞれ選んで、その符号を書きなさい。(同一数字には、同語句が入ります。)

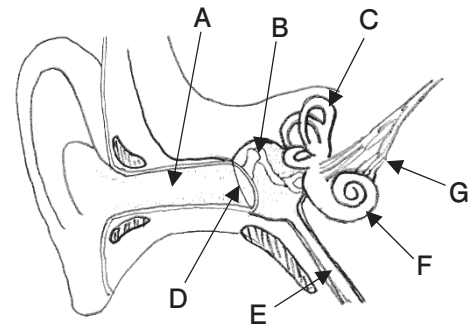


図2

聴覚障害とは、一般に音が(①)から(②)の第一次聴覚野に至るまでの経路のどこかの部位に障害が生じている状態を指す。(①)から(③)までを外耳、(③)の奥にある耳小骨から(④)までを中耳、(④)から(⑤)までを内耳という。

障害部位により、聞こえ方が異なる。また、障害部位により、音のエネルギーが内耳の感覚細胞を刺激するまでの音響物理的な障害と、感覚細胞から第一次聴覚野に至る神経系の障害に分けることができる。前者を「(⑥)」、後者を「(⑦)」と呼び、障害が両方にわたる場合を「(⑧)」という。

〈語群〉

ア 耳介	イ 耳管	ウ 複合難聴	エ 混合難聴	オ 前頭葉	カ 聴神経	キ 三半規管
ク 小脳	ケ 大脳	コ 蝸牛	サ 伝音難聴	シ 感音難聴	ス 鼓膜	セ 外耳道

3 次の文章は、学校教育法施行令第22条の3に示されている特別支援学校に入学可能な障害の程度です。①～⑦に当てはまる語句を、あとの〈語群〉ア～スからそれぞれ選んで、その符号を答えなさい。

【視覚障害者】両眼の視力がおおむね(①)未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のものうち、(②)等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの

【聴覚障害者】(③)の聴力レベルがおおむね(④)デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の話を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの

【知的障害者】(1) 知的発達の遅滞があり、他人との(⑤)が困難で(⑥)生活を営むのに頻繁に援助を必要とする程度のもの

(2) 知的発達の遅滞の程度が前号(1)に掲げる程度に達しないものうち、(⑦)生活への適応が著しく困難なもの

〈語群〉

ア 80	イ 0.1	ウ 会話	エ 0.3	オ 眼鏡	カ 60	キ 日常
ク 片耳	ケ 意思疎通	コ 拡大鏡	サ 学校	シ 社会	ス 両耳	

### 令3 特別支援学校 (8枚のうち5)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

4 肢体不自由に関する次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

脳性疾患で最も多いのは ( ① ) である。( ① ) の最も多い障害型は ( ② ) で、伸張反射の亢進によって四肢などの伸展と屈曲が著しく困難になってしまう状態になるものである。( ③ ) は、四肢などに自分の意思と関係なく奇妙な異常運動が起こるもので、最近では、一部の筋肉に異常な緊張が起こる ( ④ ) や、手指等の震えなどの症状も含めて考えられている。

- (1) 文章中の①に当てはまる疾患名を書きなさい。(同一数字には、同語句が入ります。)
- (2) 文章中の②～④に当てはまる語句を、次の〈語群〉ア～カからそれぞれ選んで、その符号を書きなさい。

〈語群〉

ア 痙直型      イ デシャンヌ型      ウ アテトーゼ型      エ 失調型      オ 二分脊椎      カ ジストニア

5 次の文が示す症状に当てはまるものはどれですか。あとの〈語群〉ア～カからそれぞれ選んで、その符号を答えなさい。

- (1) 15番目染色体の遺伝子の機能喪失により発症する。重度の精神発達遅滞、てんかん発作、失調性運動障害、笑い発作などが見られる。
- (2) 15番目染色体の遺伝子の部分欠失により発症する。共通の症状として低身長、性腺発達不全、筋緊張低下、知的障害、過食、皮膚のかきむしりなどが見られる。
- (3) 21番目染色体が多くなっているため発症する。筋肉の緊張度が低く、知的な発達に遅れが見られる。心疾患を伴うことも多い。
- (4) 7番染色体の微細な欠失により発症する。成長と発達の遅れ、大動脈弁上狭窄などの特徴が見られる。

〈語群〉

ア ダウン症候群      イ アンジェルマン症候群      ウ ウィリアムズ症候群  
エ プラダー・ウィリ症候群      オ ターナー症候群      カ レノックス・ガトー症候群

6 次の文は、学習障害について説明したものです。正しいものを1つ選んで、その符号を答えなさい。

- ア 知的機能の発達の明らかな遅れがあり、適応行動の困難性を伴う状態である。
- イ 基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、計算する、推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を示す。
- ウ 原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定され、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接的な原因となるものである。

7 次の文が示す人物に当てはまるものはどれですか。あとの〈語群〉ア～クからそれぞれ選んで、その符号を答えなさい。

- (1) フランスの神父で、世界で最初に聾学校を開き、手話法による教育を試みた。
- (2) オーストリアの小児科医で、1944年に「小児期の自閉的精神病質」という論文を発表した。
- (3) フランスの医師で、アヴェロンの森で発見された野生児に教育を行った。
- (4) フランスの盲学校教師で、アルファベットを6点で組み合わせて表現する点字を考案した。

〈語群〉

ア ハイニッケ      イ ボバース      ウ イタール      エ ピアジェ  
オ ド・レペ      カ アスペルガー      キ カナー      ク ルイ・ブライユ

### 令3 特別支援学校 (8枚のうち6)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

IV 次の表は、Aさんの現在の学校での様子を、担任が実態把握したものです。Aさんは、中学校では自閉症・情緒障害学級で学び、現在、特別支援学校高等部1年生に在籍しています(療育手帳B2取得)。以下の各問いに答えなさい。

表〈実態把握〉

得意なこと	・陸上部(短距離)で毎日練習をしており、身体を動かすことが好きである。 ・作業学習で床掃除の手順を覚え、その技術も向上し、本人も得意に思っている。
性格	・何事にも興味を持ち、取り組もうとする。
コミュニケーション	・興味・関心があることについては、積極的に他者に話しかけることができる。 ・休み時間は、一人でいることが多い。
授業中の様子	・a 友だちの動きを見ながら活動するため、作業が遅れてしまうことがある。 ・b 課題プリントに取り組んでいるときに、イライラしたような声を出してしまうことがある。
感情のコントロール	・時間割の変更があると不安定になり、何度も時間割表を確認する。 ・一度にたくさんのことを指示されると、混乱する。
進路希望	・高等部卒業後は、企業に就職したい。

1 次の問いに答えなさい。

- (1) 下線部aについて、Aさんには、どのような点に弱さがあると考えられるか。①「授業中の様子」以外で、その弱さにつながる実態を表〈実態把握〉から抜き出し、②考えられるAさんの弱さを、解答欄に合うように簡潔に書きなさい。
- (2) 下線部bについて、観察記録をとったところ、下線部bのような行動がよく見られたのは、数学の時間であった。担当教員は、その都度注意したが、下線部bの行動が減ることはなかった。しかし、1回の課題プリントの量を少なくし、終わると報告させるようにしたところ、下線部bの行動が減少した。Aさんが卒業後、自立して就職するためには、今後どのような力をつけていくことが重要と考えるか、解答欄に合うように書きなさい。
- (3) 作業学習の時間に、あなたは授業の指導者として、生徒(16名)に活動内容について全体指示を出す際にAさん自らが、作業内容を理解し活動を行うことができるようにするためには、どのような工夫が必要と考えるか。指示の場面に焦点を当て、考えられる工夫について、具体的に10文字以内で3つ書きなさい。
- (4) Aさんは、作業学習の成果を生かし、B社で清掃作業の実習を行った。実習の終了後に、B社担当者から、「大きな声で返事をし、一生懸命掃除をする姿は好感が持てました。しかし、ア 終わりの時間を気にせず掃除をしていた場面が見られたのが残念でした」と評価された。イ その評価を聞いたAさんは、不満そうな様子だった。

今回の実習は、C社で同様に清掃作業の実習をする予定となっている。あなたは、「Aさんが、B社での実習評価をC社での実習へと生かすためには、ア、イの内容を改善することが必要である」と考えた。あなたは、Aさんのア、イの課題に対して、次の実習までに、具体的にどのような手立てを考えるか。( )に合うように、それぞれ解答欄に書きなさい。

ア 作業時間を守ることができるように、( )。

イ 自分の作業を客観的に理解できるように、( )。

2 進路指導を効果的に進めるための重要な点は何ですか。次の〈語句〉をすべて使い、50文字以内の文章で答えなさい。

〈語句〉

関係機関 校内支援体制 保護者

### 令3 特別支援学校解答用紙 (8枚のうち7)

総計		

特別支援

I	1	(1)	①		②		③		④		⑤					
		(2)														
		(3)	ア		イ		ウ		エ		オ					
		(4)	c						d							
	2	(1)	①		②		③		④		⑤					
			⑥		⑦		⑧		⑨							
	(2)						(3)									
	3	(1)						(2)						(3)		

I		

II	1	(1)	①		②		③		④								
			⑤		⑥		⑦		⑧								
		(2)	①		②		③		④		⑤		⑥				
	2	(1)						②						③			
		(4)						⑤						⑥			
	3	(1)	①						②						③		
			④						⑤								
		(2)	ア		イ		ウ		エ		オ		カ				

II		

### 令3 特別支援学校解答用紙 (8枚のうち8)

特別支援

Ⅲ	1	(1)					(2)	m				(3)				
		(4)	ア		イ		ウ		エ		オ					
	2	(1)	①		②		③		(2)		(3)					
		(4)	①		②		③		④							
			⑤		⑥		⑦		⑧							
	3	(1)	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦	
	4	(1)	①				(2)	②			③		④			
5	(1)			(2)			(3)			(4)			6			
7	(1)			(2)			(3)			(4)						

Ⅲ		

Ⅳ	1	(1)	〔①〕という様子から、〔②〕に弱さがあると考えられる。														
		(2)	〔 〕力														
		(3)	・											10			
	・												10				
2	(4)	ア	作業時間を守る事ができるように、 〔 〕														
		イ	自分の作業を客観的に理解できるように、 〔 〕														

Ⅳ		



# 令3 特別支援学校 模範解答

総計		
200点		

I	1	(1)	①	カ	②	エ	③	サ	④	ウ	⑤	ケ		
		(2)	・盲・聾・養護学校から特別支援学校への転換 ・特別支援学校のセンター的機能 ・小・中学校等における特別支援教育の推進						に関することのうち、1つを記載					
		(3)	ア	○	イ	×	ウ	○	エ	○	オ	○		
		(4)	c	LD				d	ADHD (AD/HD)					
	2	(1)	①	コ	②	イ	③	タ	④	ソ	⑤	エ		
			⑥	ウ	⑦	ケ	⑧	ナ	⑨	シ				
		(2)	ア、ウ				(3)	合	意	形	成			
	3	(1)	社会的・職業的自立				(2)	○				(3)	幼稚園・大学を除く	

I		
48点		

II	1	(1)	①	エ	②	ウ	③	エ	④	カ					
			⑤	オ	⑥	イ	⑦	エ	⑧	ア					
		(2)	①	オ	②	カ	③	シ	④	コ	⑤	イ	⑥	ケ	
	2	①	学校教育法				②	発達			③	自立活動			
		④	○				⑤	○			⑥	センター			
	3	(1)	①	ホームルーム				②	カウンセリング			③	生徒指導		
			④	生涯				⑤	安全						
		(2)	ア	○	イ	×	ウ	○	エ	×	オ	×	カ	×	

II		
67点		

### 令3 特別支援学校 模範解答

Ⅲ	1	(1)	ランドルト環				(2)	5 m				(3)	暗	順	応	
		(4)	ア	×	イ	○	ウ	×	エ	○	オ	×				
	2	(1)	①	C	②	B	③	E	(2)	F	(3)	91.25 dB				
		(4)	①	ア	②	ケ	③	ス	④	コ						
			⑤	カ	⑥	サ	⑦	シ	⑧	エ						
	3	①	エ	②	コ	③	ス	④	カ	⑤	ケ	⑥	キ	⑦	シ	
	4	(1)	①	脳性まひ				(2)	②	ア	③	ウ	④	カ		
5	(1)	イ	(2)	エ	(3)	ア	(4)	ウ	6	イ						
7	(1)	オ	(2)	カ	(3)	ウ	(4)	ク								

Ⅲ	56点

Ⅳ	1	(1)	$\left[ \begin{array}{l} \textcircled{1} \text{ 何度も時間割表を確認する} \\ \text{一度にたくさんのごことを指示されると、混乱する} \end{array} \right]$ という様子から、 $\left[ \begin{array}{l} \textcircled{2} \text{ 聞く力、} \\ \text{ワーキングメモリ} \\ \text{短期記憶} \end{array} \right]$ に弱さがあると考えられる。										
		(2)	$\left[ \begin{array}{l} \text{自分の思いを相手に言葉で伝える} \end{array} \right]$ 力										
		(3)	メ	モ	を	取	ら	せ	る				10
			手	本	を	示	す				10		
	(4)	ア	$\left[ \begin{array}{l} \text{作業時間を守ることができるように、} \\ \text{タイムタイマーを使い、生徒が残り時間を把握できるようにする。} \end{array} \right]$										
イ	$\left[ \begin{array}{l} \text{自分の作業を客観的に理解できるように、} \\ \text{作業の様子動画をみせるなど、生徒に作業内容を振り返らせ、課題を把握できるようにする。} \end{array} \right]$												
2	校内支援体制を構築し、保護者との協力と関係機										10	20	
	関との連携を十分に図って取り組むことが重要										30	40	
	である。										50		

Ⅳ	29点